

# くらし

## “就職力”



### 磨く

8

# 面接の目的ももう一度整理

応募側にとっても面接の場は、自分が本当に入社したい会社なのかを見極めるための絶好の機会となりま

す。

双方の立場から、面接の目的をもう一度整理してみ

ましょう。

企業の面接担当者は、履歴書や職務経歴書からだけでは分からない応募者の能力や適性を見よう

とします。それも10〜20分の短い時間で質問し、相手の態度や応対の仕方、質問に対する答えの内容で判断するわけです。一方、

応募側の目的は①履歴書や職務経歴書では伝え切れない自分の特長や適性をアピールする②企業風土を

観察し、従業員育成の取り組み方などを聞いて、自分が本当に入社したい会社かどうか判断する—ということになります。

面接の目的をしっかりと把握しておけば、その場でどのように振る舞うべきか、質問にどのように対応すべきかよく分かった上で臨め

ます。次に、面接のための準備です。十分にアピールして後悔のないようにするため、心の準備はもちろん、予備知識の収集、服装の用意など、周到に行いたいものです。応募する会社の事業概要や商品内容、最近のトピックス、その業界の趨勢(すつせい)などを事前に知っておくと、面接時に落ち着いて対応できます。今

はインターネットで調べられる時代です。応募企業を事前に訪ねて、建物の外観や受け付けの様子などを見ておくのもよいでしょう。近ごろは警備が厳しく簡単に入館できない企業も多くなりましたが、可能なら一度その会社の雰囲気を経験してみてください。自宅からの電車の乗り継ぎや所要時間などを確認することもできます。本番の日に、きつと心を落ち着けて立ち向かえるでしょう。

(人材教育コンサルタント 坂巻美和子、イラストは長縄キヌエ)

木曜日に掲載します

